

令和2年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		
中長期目標	<p>1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。</p> <p>2 課題意識のある生徒の育成 知的的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。</p> <p>3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。</p>	今年度の重点目標	<p>1 主体的な学びの推進</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>3 地域に信頼される教育の展開</p> <p>4 働き方改革の推進</p>

評価項目	具体項目	年 度 当 初			中 間 評 価	
		現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学びの推進	アクティブ・ラーニング等による授業改善と評価の改正	著名な講師を招き、示範授業や各種研修会を積極的に開催している。	・教員の授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の問いに、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が確実に実施し、授業の改善を図る。 ・「定期考査等に関する検討プロジェクト委員会」の答申を、ルーブリックを作成し、確実に実行する。	・新型コロナウイルス感染症への感染予防のため対面にならないよう工夫をしながら、各教科でアクティブ・ラーニングを実践している。 ・開講科目ごとにルーブリックを作成しパフォーマンス評価を行っている。また、期末考査の範囲をその学期全ての範囲とするなど、暗記を避け、思考力・判断力・表現力を問う問題を増やしている。	A
	SSH事業による科学的探究心・情報発信力・実践力の育成	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンペに積極的に打って出ている。 ・総参加者 41件・744人 ・予選を通過して上位大会へ出場した者 10件・87人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンクールやコンペへの参加者数 ・総参加者 50件・800人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場する者 10件・100人以上	・内外コンクールやコンペに積極的に打って出るよう促す。 ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」によって、主体的探究活動を推進する。	・各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業で定員を超える多くの申込者があった。 ・学校設定科目「課題探究基礎」では「課題探究基礎ノート」を用いて、計画的に探究活動ができている。 ・学校設定科目「課題探究応用」では「打って出る」目標と研究を結びつける取り組みにより、研究の質が高まっている。 ・学校設定科目「課題探究発展」では、全生徒が英語論文の作成を行った。11名が「継続課題探究」を選択し、うち4名が学校祭でその取り組みを発表した。	A
	進路指導の充実	国公立大学合格者208名、難関大学合格者51名、現役合格者147名となった。	・国公立大学合格者200名以上 ・難関大学合格者70名以上 ・現役合格者160名以上	・新入試制度へ対応した方策をとる。 ・二次試験対策の強化(授業・講習) ・放課後講習の早期開始	・夏期講習を多くの生徒が積極的に受講した。また、3年次生はオンラインで行った。(1年 昨年79名⇒今年330名 2年 昨年119名⇒今年73名 3年 昨年173名⇒今年308名) ・臨時休業中や分散登校中、オンライン授業を実施し、授業時数を確保した。その結果7月進研記述模試では優秀な成績を収めた。各学年の偏差値の推移は以下のとおり。(1年 昨年59.5⇒今年60.9 2年 昨年60.2⇒今年61.4 3年 昨年55.2⇒今年57.9)	A
2 豊かな人間性の育成	主体的・自律的態度の育成	・掃除の時間を朝に移行し、掃除の徹底を行っている。 ・総遅刻者数は延べ242人で対前年度比56%減であった。	・規範意識の高揚 ・品格と矜持をもった振る舞い ・主権者意識の高揚 ・TEASの推進 ・遅刻者数対前年比20%減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・お掃除マイスターによる講演会、主権者教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底	・部活動に所属している生徒を中心に気持ちの良い挨拶を行うことができるようになっていくが、一部の生徒で挨拶をしない生徒もいる。生徒会執行部を中心に挨拶運動を行うなどの取り組みを行う予定である。 ・9月までの総遅刻者数は94名(昨年81名)であった。3年次生以外は昨年比へ増加しており、遅刻確認票などによる遅刻指導の徹底を行っていく必要がある。(1年 昨年12名⇒今年34名 2年 昨年19名⇒今年33名 3年 昨年50名⇒今年27名)	B
	部活動の奨励	硬式野球部の春夏連続甲子園出場やダンス部が手話パフォーマンス甲子園全国大会に出場するなど各部が活躍し、生徒相互の良い刺激となっている。	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やす。 ・「部活躍報告」を行うことよって、賞賛する機会を設ける。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの部活動で中国大会・全国大会が中止となったが、県高校総体の代替大会で、ボート部、女子バレー部、男女テニス部、サッカー部、水泳部、囲碁部が優勝を果たした。ダンス部は全国高校生手話パフォーマンス甲子園へ2年連続出場し、硬式野球部は秋季鳥取県高等学校野球大会で優勝し、中国大会へ進んだ。 ・「部活躍報告」で、上位入賞した部活動などを表彰し、賞賛する機会を設けている。	B
	体験的な学びの推進	国際交流・人権教育などを通して多面的な教育を展開しているが、追求する姿勢が足りず、妥協している生徒も多い。	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・オーストラリアアデレードでの海外研修の実施 ・体験型ワールドカフェ形式・パネルディスカッション形式の人権教育公開LHRの実施	・3年次生は人権教育LHRでSDGsを題材にして取り組み、生徒自身が国際課題に対してどのように貢献できるかを学んだ。 ・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、SSHオーストラリアアデレード研修、台湾桃園市立陽明高級中学への訪問が中止となったが、来年4月の台湾桃園市立陽明高級中学の受け入れに向け、社会人講師を招き、教職員研修を実施した。 ・グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者は昨年度の9名から17名に倍増した。	B
3 地域に信頼される教育の展開	P.T.A活動の推進	P.T.Aの各委員会(総務、人権教育推進、生徒育成、進路)が活発に活動している。	保護者と教職員の連携	P.T.Aのニーズに対応した事業内容の見直しを進める。	・新型コロナウイルス感染症への感染予防のため、各種P.T.A行事を「鳥取県立学校版感染症予防ガイドライン」に基づいて開催した。 ・「米東だより」第101号では、すべての部活動を紹介すると共に、オンライン授業やヘルメット着用推進等、様々な角度から取材し学校情報を伝えた。	B
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。 ・学校運営協議会試行会議を開催し、学校運営協議会導入に向けた準備を進めている。	・積極的な学校情報の発信 ・地域との連携強化 ・学校運営協議会の導入	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会と連携し、地域住民の理解と協力を得た学校運営を実現する。	・新型コロナウイルス感染症で諸行事が中止になったが、9月15日までのHPの更新回数は91回(昨年94回)で積極的に学校情報を配信している。 ・HPで学校行事、部活動の結果などの生徒の様子を積極的に伝えている。 ・HPやマチコミメールで、臨時休業等の連絡を随時行っている。 ・マスコミへの情報提供によって、生徒の活躍や学校の様子がタイムリーに報道されている。	B
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	教職員の1人あたりの時間外業務時間は対H29年度比33%減(H29:27.4時間/月⇒R1:18.8時間/月)だった。	教職員の1人あたりの時間外業務時間対H29年度比25%減	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守する。	・時間外業務時間が多い職員を目標面談時や月末に個別に指導するなどした結果、9月末現在の教職員の時間外業務時間は平均12.5時間/月で、昨年比として7.5時間/月減少した。 ・「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守し、各部活動ごとに月別計画表や月別実績表を提出するなどして、働き方改革を進めている。	B
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数を削減する。	会議の回数削減等による業務の効率化を進める。	・協議スキームを徹底し、会議の削減を行っている。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要